

第2章  
縦断データにおける欠測を知る  
－ 欠測メカニズム －

2015.02.25 宇佐美慧・荘島宏二郎

# 2.4.2節 完全情報最尤法

# 本稿は 第6巻AMOS資料 を既知として 解説しています

第6巻1章  
Amos資料  
目的1参照

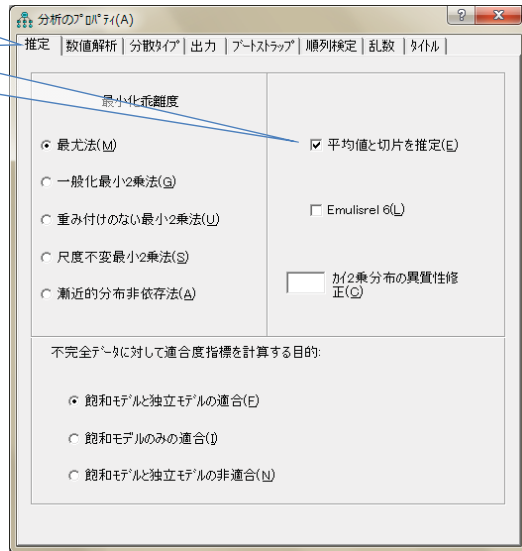
## 2.4.2節 分析の準備

1. 第7巻の伴走サイトよりv07c2missing.savの保存
2. Amosの起動
  - スタートメニューからAmos Graphics
  - あるいは、デスクトップアイコンをダブルクリック
3. SPSSデータファイルの指定
  - ファイル→データファイル: v07c2missing.savを指定
4. Amosファイルを名付けて保存
  - ファイル→名前を付けて保存: v07c2missing.amwとして保存
5. 分析のプロパティ
  - 推定タブで平均値と切片を推定に
  - 出力タブで標準化推定値に

## 2.4.2節 分析のプロパティ

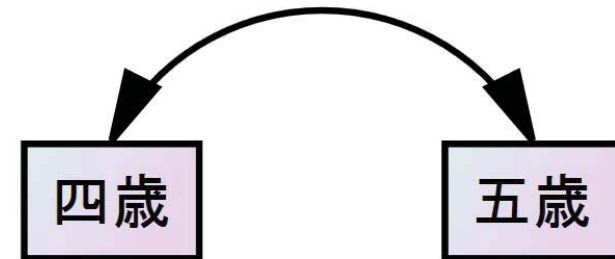
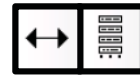


推定タブの平均値  
と切片を推定に



このを入れるだけで  
Amosでは推定方法が  
完全情報最尤推定法  
に切り替わる。  
つまり、このだけで  
ランダム欠測(MAR)に  
対応した分析になる

## 2.4.2節 パス図の作成



## 2.4.3節 多重代入法

### AMOSの多重代入法の現在

- 最新バージョンはVer.22(2015年2月現在)
- Ver.22では、図2-8(P.24)のデータセットをM個(たとえば、10個などと指定できる)作成する
  - 「分析→データ代入」で指定する
- しかし、個々のデータセットの分析は分析者が1つ1つ行わなければならない
- 結果の統合も分析者が行わなければならない
- 手間がかかり、現在のところ、AMOSでの多重代入法をお勧めしません
- どうしても、という読者には以下をお勧めします。
  - 豊田秀樹(2007)共分散構造分析[AMOS編]東京図書